



三協シール印刷株式会社

三協シール印刷株式会社

- 本社所在地
東京都三鷹市新川6丁目31番12号
- 主な事業内容
工業用や医療用シールを中心とした印刷・加工業
- 設立
1953年4月
- URL
<http://www.sankyo-ssp.co.jp/>
- 導入システム
Automation Engine

三協シール印刷株式会社



三協シール印刷株式会社
代表取締役
森屋 一樹 氏



三協シール印刷株式会社
営業本部長
山下 国宏 氏



三協シール印刷株式会社
生産本部 設計制作室 係長
木ノ下 万利子 氏

Automation Engineでプリプレス自動化 現場・営業・顧客へと効果波及

工業用や医療用シールの印刷・加工を手掛ける三協シール印刷は、ワークフロー自動化ソリューション「Automation Engine」によってプリプレス工程を手作業から自動化へシフト。残業時間・作業ミスを大幅削減、その効果は現場のみならず営業強化や顧客関係強化へと波及。導入10年以上が経つ現在も、カスタマイズを重ねAutomation Engineの進化は続いている。

【導入背景】 導入効果波及をイメージ

工業用や医療用シールを中心とした印刷・加工を手掛ける三協シール印刷は、昭和28年の創業以来、長きに渡り品質向上と顧客からの信頼獲得を追求してきた会社だ。東京都三鷹市に本社ならび三鷹工場を、山梨県都留市に都留工場を置き、凸版印刷機・ロールシルク式印刷機・加工機などを数多く備える充実した生産設備を持つ。社員約60名の半数以上が女性という、改善意識・相互援助意識の高い職場環境が特徴だ。

代表取締役の森屋氏がAutomation Engineを知ったのは今から約10年前、ESKO主催の製品紹介の場に参加したのがきっかけだった。当初、森屋氏の頭のなかには社内の改善点として、プリプレス作業の効率化があった。多くの手作業で行っていたプリプレス工程は残業を作り出す原因となっており、できるだけ早く改善すべき課題であった。しかし改善意識が高まる一方で「プリプレス作業はオペレーター各人の裁量に任せる部分が多く可視化しづらかった。簡単に手をつけられない部分もあった」と森屋氏は当時を振り返る。そうしたなかAutomation Engineを知る機会を得た森屋氏は、その製品コンセプトに課題解決の糸口を見いだし、導入に向けた検討を進めることになる。

まず「Automation Engineの製品コンセプトに新鮮さを感じた。それまでワークフロー全体をソフトウェアで効率化するという概念がなかつた。例えばDTPソフト1つとっても、そのソフト単体でどこまで効率を上げるかという視点だった」(森屋氏)という。古くから製版システムにESKO製品を採用していることもありハードに関する知見はあったが、プリプレスを一元化、自動化するAutomation Engineには新鮮な魅力を感じたようだ。特に高度なデータチェック機能・検版機能には目を見張るものがあり、作業ミスを防止する上で非常に有効と判断した。



ESKO

さらに「Automation Engineの理解が進むにつれ、導入効果は現場の作業効率化だけでなく、営業強化や顧客利益にもつながるのではないかとプラス効果が波及していくイメージが湧いてきた」(森屋氏)という。検討段階からAutomation Engineが企業活動全体にメリットをもたらすと、経営者として勝算を得ていたようだ。

【導入・運用プロセス】 満足度高いサポート、順調な運用続く

Automation Engineが本社へ導入されたのは2011年10月、「導入に際してはESKOの手厚いサポートを受けジョブ登録やワークフロー作成を進めることができた」(森屋氏)という。また導入当初からジョブすべてをAutomation Engineのワークフローに流し込み、その操作方法をマニュアル化している。ジョブの内容にもよるが、ワークフローの自動化を導入すぐ、ジョブ全量で対応するケースは多くない。「ESKO担当者からは一気にすべてのジョブをAutomation Engineに通すのではなく、まずは半分程度を目安とし段階的な運用を勧められた。しかし例外はつくらないとして最初からジョブ全量で活用してきた」と森屋氏は導入へのこだわりを強調する。

現在Automation Engineを操作するオペレーターは3名、順調な運用を続けている。プリプレス部門を統括する設計制作室係長の木ノ下氏は「使いやすいインターフェイスで新人教育の際も苦労しない。不具合が生じた場合にはESKO担当者へ連絡するとすぐにリモートで問題を確認、解決策を提示してくれるので安心して使っている」とAutomation Engineの操作性やESKOによるサポートを高く評価。満足度の高いサポート体制のもとAutomation Engineを安心して使える環境が出来ているようだ。



本社プリプレス部門

【導入効果】 残業・ミス大幅削減、営業や顧客へ効果波及

Automation Engineの導入は、森屋氏が描いていたイメージ通り、様々なメリットを生んでいる。まず現場における効果だが、残業時間や作業ミスを大幅に削減、部署間の情報共有もスムーズに行えるようになった。「シンプルに多くの手作業が自動化されたことで作業効率が大幅に向上了。数値化はしていないが、その改善効果は十分把握できている」(森屋氏)という。特に思い込みやうつかりといった人的ミスが大幅に減ったことを実感している。間違いがないのが当たり前の印刷業界では一度のミスで顧客の信頼を失うことは珍しくない。なかでも小さなミスが重大なトラブルにもつながる医療向けの仕事を多く請け負う同社では、データ確認や出荷検査に重きを置いている。最終確認となる出荷検査には社員の約3割を配置する徹底ぶりだ。「例えば医療用ラベルの年度変更があった場合、変更点は1箇所のみだが版下作成後のチェックはAutomation Engineで入念に行う」(木ノ下氏)という。人によるチェックだと時間もかかるが「Automation Engineを使うと、変更すべき点が修正され不要な修正が起きてないか、修正前後の違いが一目瞭然でわかるので非常に助かっている」(木ノ下氏)と高度な検版機能を高く評価している。さらに「お客様から支給されるデータ上のミスを発見することもあり、ミスを指摘することでお客様から感謝され信頼性の向上にもつながっている」(木ノ下氏)と営業的メリットにも言及。営業本部長の山下氏は「実際Automation Engineの活用により高い品質を維持できるため、自信をもって営業活動ができる」とそのメリットを認識している。もともと同社の品質意識は高く、業界の腕くらべともいえる「シールラベルコンテスト(全日本シール印刷協同組合連合会主催)」では毎年入賞・受賞を果たすほどだが、Automation Engineによってさらに品質強化が進んでいる模様。Automation

Engineの導入効果が、現場、営業、そして顧客へと波及していく好循環が出来上がっているようだ。

0617	0213	0213
20613	90219	90219
10614	80220	80220

修正箇所が一目瞭然

【今後の展開】

現状に満足せず、ネクストステージ探る

このようにAutomation Engineユーザーとして約10年、成功事例として疑いのない運用状況であるが、森屋氏をはじめとする関係スタッフは現状に満足はしていない。「導入後およそ10年経つが使いこなせていない機能も多い。まだAutomation Engineを発展させている段階。導入したシステムは、こだわりをもつてカスタマイズしていくのがモットー」というのは森屋氏。プリプレス作業にあたる木ノ下氏も「まだ習熟したレベルに至っていない。誤操作によってはじめて知る機能もある」という。さらに営業部門を総括する山下氏は「工業・医療向けの仕事が中心ですが、様々な分野に間口を広げた営業を展開しているところ。仕事の幅が広がるとAutomation Engineの活用もこれまでにない広がりを見せるはず」と営業目標から今後の展望を示す。総じて現状に満足せず、Automation Engine活用のネクストステージを探る構えだ。

森屋氏のモットーが示すとおり、三協シール印刷のこだわりによってカスタマイズを重ねるAutomation Engineの進化には、まだまだ奥行きがありそうだ。



製版システム (ESKO製) と女性用足場 (森屋氏作)

エスコグラフィックス株式会社

〒135-0064 東京都江東区青海2丁目5番10号テレコムセンタービル西棟6階 TEL.03-5579-6295 FAX.03-5579-6296
〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満3-7-27 UX西天満ビル1階 TEL.06-6335-9815 FAX.06-6335-9816

ESKO